

CSJ Annual Report
2026

日本化学会アニュアルレポート

目次

Top Message … 01

日本化学会中長期基本戦略（2025年～2030年） … 02

2025年度活動 pick up・2026年度活動方針 … 03

春季年会・CSJ 化学フェスタ … 04

講演会・講習会・実験教室の開催 … 06

化学を広める・未来の化学者を育てる … 08

キャリア支援 … 10

英文論文誌 … 12

出版 … 15

グローバリゼーション … 16

社会に向けた様々な取り組み … 17

表彰事業 … 19

企業・団体からのご支援 … 20

ご支援のお願い … 21

化学会概要 … 22

会計報告 … 24

ノーベル賞受賞会員

日本化学会とは

日本化学会は、化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し、交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は、産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することにあります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



日本化学会はSDGsを推進した活動を心がけています

Top Message

——世界の化学会を目指して



化学の役割

化学・ケミストリーはすべての自然科学につながるザ・セントラルサイエンス (the central science 「科学の中心」) と呼ばれています。自然界を形作っている化学物質を観察し、理解し、変換し、利用する学問である化学の知識や考え方は多くの自然科学に直接つながっています。

同様に化学産業で作られる素材や製品は多くの産業につながっており、それらの産業が必要とする機能を持った化合物を開発・提供するという役割を果たしています。化学産業はザ・セントラルインダストリー (the central industry 「産業の中心」) と呼ぶことができるかもしれません。

「学問としての化学」「産業としての化学」に期待される役割の変化がここ 10 年ほどで顕在化してきているように感じています。

これまでは、世の中を便利にする素材・製品を開発して生産する「マテリアル・プロバイダー」としての役割が化学に期待されていました。これからはそれに加えて、炭素循環社会の構築という地球環境の持続可能性を実現する「ソリューション・プロバイダー」としての役割が付け加えられていきます。ソリューション・プロバイダーとしての喫緊の課題は原料とエネルギーの化石資源依存からの脱却です。特に原料の問題は化学技術でしか解決できません。CO₂ 回収や水素エネルギー貯蔵の有力な手段としての可能性がある「多孔性金属錯体の開発」で昨年北川 進博士がノーベル化学賞を受賞されたことはそれを表しています。

化学の手法にも近年大きな変化が見られます。それ

は AI や MI の進展が研究開発や製造の現場を劇的に変えつつあることです。これらの最新技術をザ・セントラルサイエンス／インダストリーとしての化学をより強靱化していく推進力にしなければいけません。

日本有数の歴史を持つ学会の 1 つである日本化学会は 2 年後の 2028 年に創立 150 周年を迎えます。化学に新たな役割が求められるようになった変化の時に節目の年を迎えることは象徴的です。

日本化学会では以前から化学だいすきクラブ、化学グランプリ (通称：化学の甲子園)、国際化学オリンピック事業を通じて小・中・高生に化学に触れてもらう機会を提供し、高度人材の育成とベースとなる化学人材の広がりを積極的に推進しています。

加えて、ザ・セントラルサイエンスとしての化学には、若者が化学を入り口として様々な自然科学の分野に進んでいくことを後押しする役割もあります。

化学は (アカデミックとしても産業としても) ある時は主役としてある時は欠くことのできない脇役として社会を支えてきました。これからも日本化学会は産学が力を結集して社会を支え、持続可能な未来の実現に貢献していきます。

公益社団法人日本化学会 会長
株式会社レゾナック・ホールディングス取締役
取締役会議長

森川 宏平

日本化学会中長期基本戦略

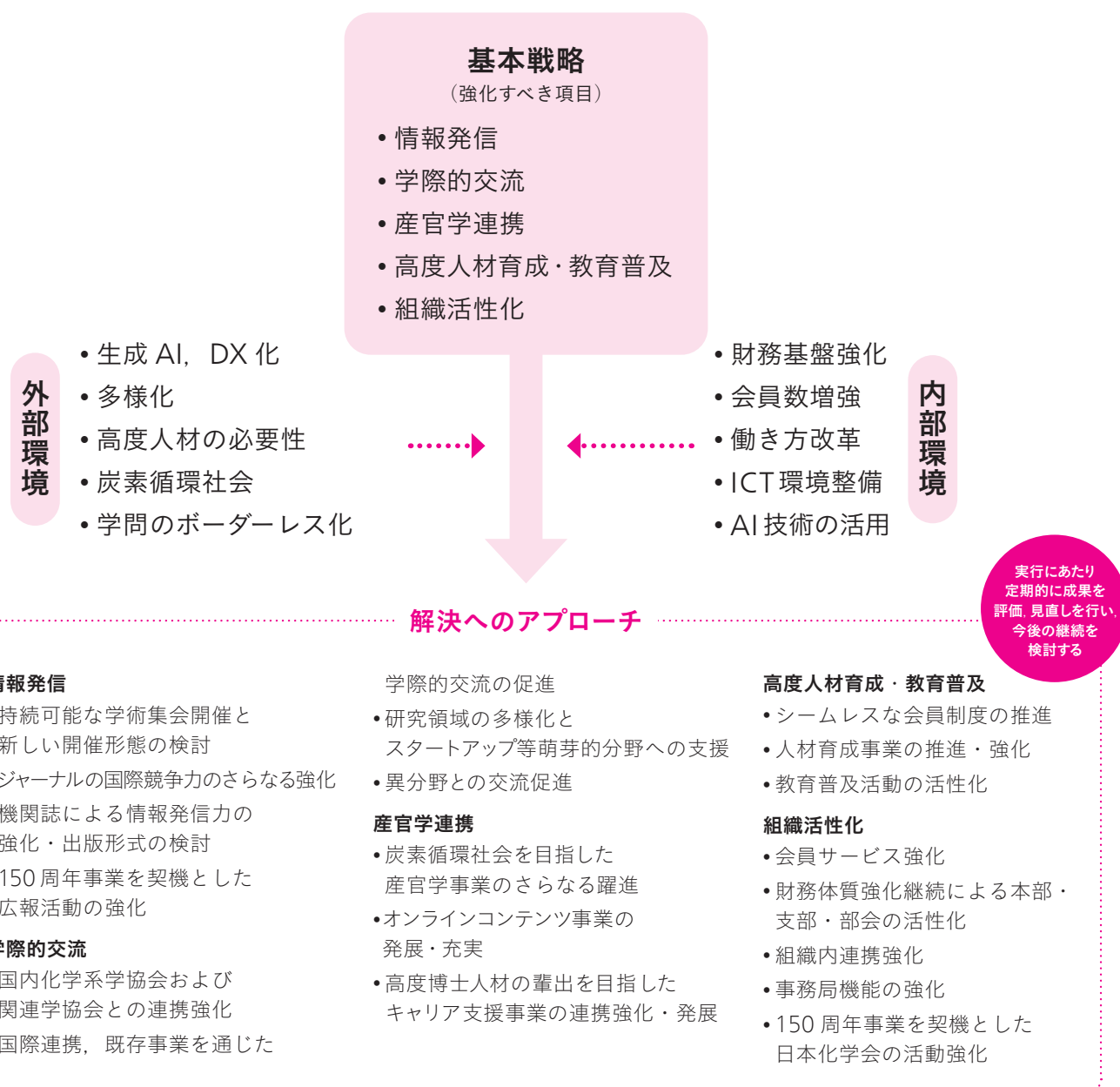
(2025～2030年)

基本理念

日本化学会は、日本で最も歴史ある化学系学協会として、世界を先導する研究および技術開発による基礎科学の発展ならびに社会実装を行い、さらには次世代を担う高度人材の育成を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

基本理念から導かれる 中長期基本戦略

基礎科学の発展／社会実装の実現



2025 年度活動 pick up・ 2026 年度活動方針

2025 年度活動 pick up

2025 年は 10 月に北川 進博士（京大）がノーベル化学賞を受賞されました。受賞から 2 週間後の CSJ 化学フェスタにおいて世界一早い受賞記念講演会が実現しました。また、12 月にはハワイにて Pacifichem が開催されました。前回は新型コロナウイルスの影響で完全オンライン開催だったため 10 年ぶりの現地開催となりました。



[左] 世界一早いノーベル化学賞受賞記念講演（@CSJ 化学フェスタ）



[右] Pacifichem 開会式

2026 年度活動方針

中長期基本戦略 強化すべき項目	解決へのアプローチ	2026 年活動方針
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な学術集会開催と新しい開催形態の検討 ジャーナルの国際競争力のさらなる強化 機関誌による情報発信力の強化・出版形式の検討 150 周年事業を契機とした広報活動の強化 	<p>収支改善とサービス向上を意識した 106 年会の着実な実行と 107 年会の準備。持続可能な開催に向けた体制の構築、遂行</p> <p>科研費の数値目標（投稿数、ダウンロード数、IF）達成を見据え、OUP と連携したグローバルなジャーナル PR と投稿促進</p> <p>機関誌の電子媒体を活用したプロモーションの実施による新たな購読者の獲得</p> <p>情報発信強化（配信メールの拡充・ウェブサイトの機能充実・SNS 等）による会員サービスの向上促進</p> <p>150 周年事業を契機にした学会広報活動による化学普及の推進強化</p>
学際的交流	<ul style="list-style-type: none"> 国内化学系学協会および関連学協会との連携強化 国際連携、既存事業を通じた学際的交流の促進 研究領域の多様化とスタートアップ等萌芽的分野への支援 異分野との交流促進 	<p>国内化学系学協会・機関および関連学協会との事業協力関係の発展に向けた検討</p> <p>国際会議・二国間協定事業、国際連携機関等の活動支援を通じた学際的交流の促進および国際的プレゼンスの向上</p> <p>多様化する研究領域および萌芽的分野への支援制度・体制の検討</p>
産官学連携	<ul style="list-style-type: none"> 炭素循環社会を目指した産官学事業のさらなる躍進 オンラインコンテンツ事業の発展・充実 高度博士人材の輩出を目指したキャリア支援事業の連携強化・発展 	<p>炭素循環社会実現を意識したイベント（CSJ 化学フェスタ、年会 CIP、R&D 懇話会、CTO サミット等）の推進</p> <p>オンラインコンテンツを活用した収益化の検討</p> <p>新規部会、新規留学支援事業の立ち上げ、実行を通じたキャリア支援強化</p>
高度人材育成・ 教育普及	<ul style="list-style-type: none"> シームレスな会員制度の推進 人材育成事業の推進・強化 教育普及活動の活性化 	<p>化学だいきクラブから個人会員制度まで、各世代をつなぐ仕組みの強化と推進</p> <p>金の卵育成プログラム、中高生会員向けサービス強化を通じた人材育成事業の推進</p> <p>本部・支部・部会による事業を通じた人材育成、教育普及活動の推進</p>
組織活性化	<ul style="list-style-type: none"> 会員サービス強化 財務体質強化継続による本部・支部・部会の活性化 組織内連携強化 事務局機能の強化 150 周年事業を契機とした日本化学会の活動強化 	<p>会員にとって魅力的なコンテンツの充実とシステム連携の強化</p> <p>さらなる財務体質の健全化（資産運用業務、寄付事業、会館賃貸業務等）</p> <p>150 周年行事に向けた特別委員会および専門委員会（式典、企画・広報、寄付）の推進</p> <p>事務局人材の育成（AI 活用推進等）および支部・部会体制の強化</p> <p>組織連携で進める 150 周年記念事業の推進</p>

春季年会・CSJ化学フェスタ

本会では、春と秋に二大イベントを開催しています。

日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点を持った様々な分野の研究者が一堂に会す化学系学会最大級のイベントです。

インターネットや文献などの情報収集ではできない「ディスカッション」「face to faceの情報交換」「産学官の垣根を超えた人脈作りの場」として活用してもらうことを目的に開催しています。

春季年会

国内外から約6,000名の参加者と情報がダイナミックに交わる国内最大級の学術イベントとして、毎年3月下旬に4日間連続で開催されます。講演件数は約4,000件に上り、約50の会場で実施されます。最先端の化学技術に関する情報を密に、深く、広く、得ることができるほか、研究分野を超えて集い交流する場となっています。第105春季年会は対面開催に戻りましたが、一部の会場では現地とオンラインのハイブリッドでセッションを実施しました。また懇親会も開催され、積極的な交流が見られました。今後も年会改革の下、各方面で従来の運営から少しずつ変化を取り入れ、発表者、聴講者双方にとって魅力ある内容を目指していきます。



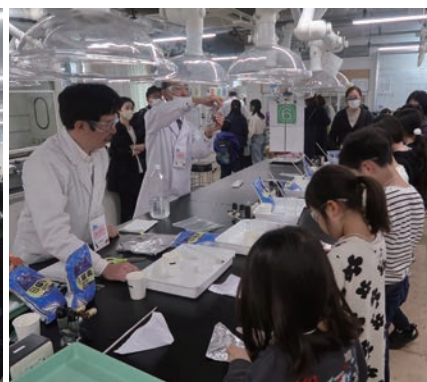
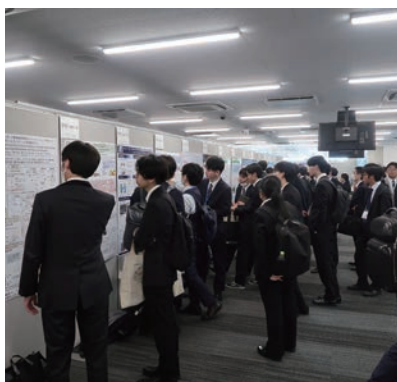
2025年度開催実績

● 第105春季年会

参加者数：6,294名

講演件数：3,958件

会場：関西大学 千里山キャンパス (大阪府)



春季年会会場の様子（口頭講演会場、ポスター会場、子供向け実験教室）

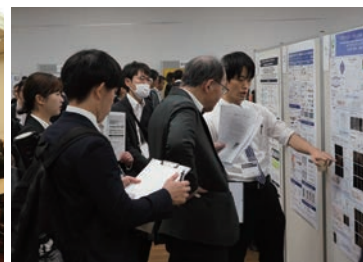
CSJ 化学フェスタ

2011年の世界化学年に秋季事業の一環として「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を目的にスタートしました。毎年10月中旬～下旬に3日間連続で開催され約3,000名が参加します。参加者は、「エネルギー・資源・環境」「新素材」「バイオ」分野などの最新の化学と技術を紹介する約200件のテーマ企画講演および約1,000件の学生ポスター発表を聴講できます。2日目の夜には約400名が参加する懇親会が大々的に開催され、業種や年齢の違う多くの仲間を作ることができる場として有効に活用されています。第15回ではノーベル化学賞の発表からまもないノーベル賞解説講演会に北川進博士ご本人がご登壇し、まさに『世界一早い』解説講演会兼受賞記念講演会が実現しました。今後も、産学官がさらに交流を深めていけるよう様々な挑戦をしていきます。

2025年度開催実績

● 第15回CSJ化学フェスタ

参加者数：2,690名
講演件数：1,031件
会場：タワーホール船堀（東京都）



[上] 世界一早いノーベル化学賞受賞記念講演
[中・左] 会場入り口
[中・右] 交流会
[下・左] 口頭講演会場
[下・右] ポスター会場

市民に開かれた講座

春季年会、CSJ化学フェスタでは会員向けだけでなく、市民の皆様に向けた講座を開催しています。普段、化学に関わりのない一般市民の方々に「化学にもっと親しみを持ってもらおう」「化学の有益性を知ってもらおう」ということが目的です。子供向けの講座は特に人気で毎回定員を超える応募を頂戴しています。

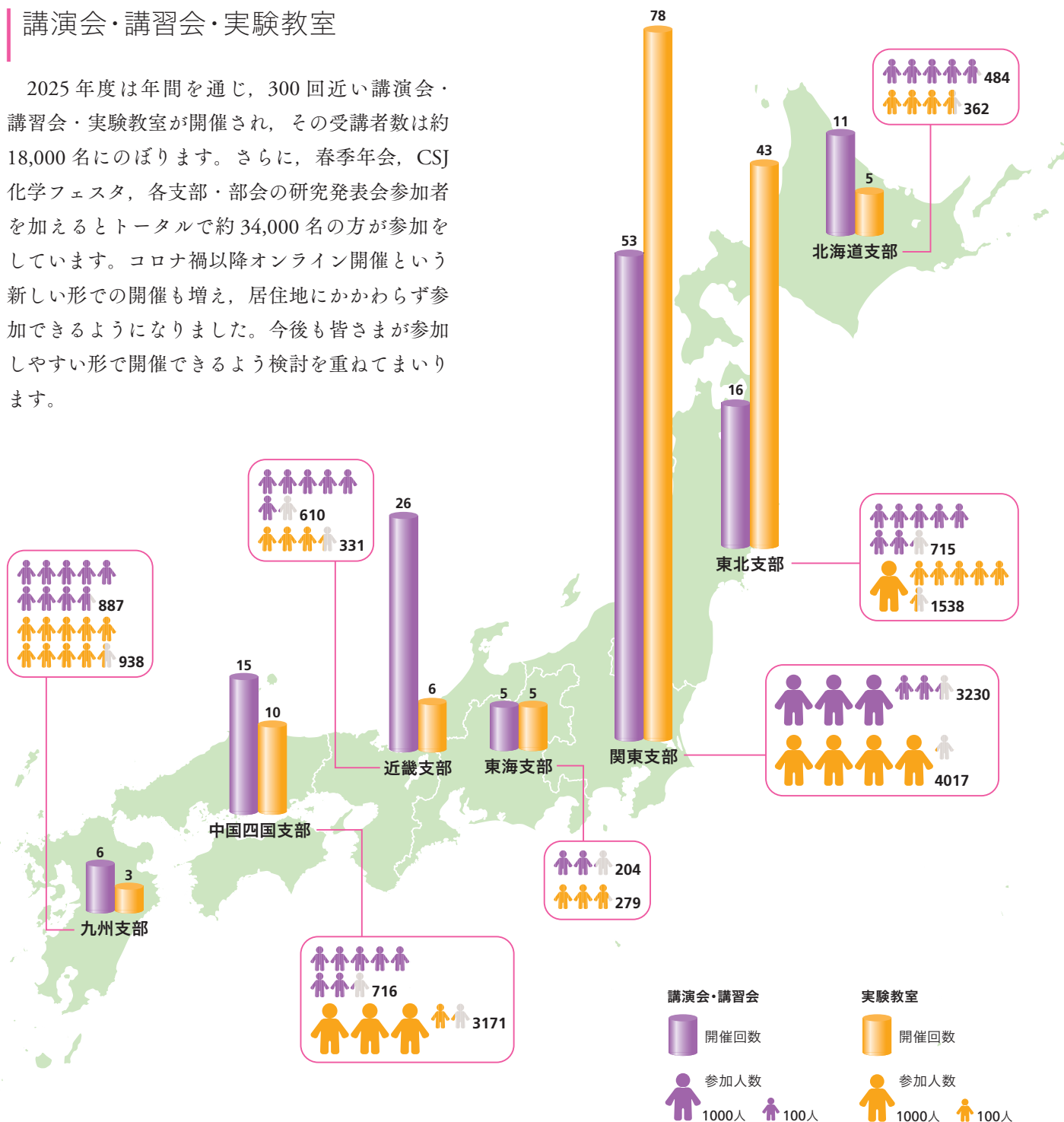


講演会・講習会・実験教室の開催

変化の激しい現代社会では、最新の専門知識が求められる一方、その高度な専門知識を活かすだけの基礎知識も求められるという二面性を持っています。前述の春季年会、CSJ化学フェスタ以外にも、研究者、教育者にとって有益な情報をもたらす機会を全国規模で多く提供しています。

講演会・講習会・実験教室

2025年度は年間を通じ、300回近い講演会・講習会・実験教室が開催され、その受講者数は約18,000名にのぼります。さらに、春季年会、CSJ化学フェスタ、各支部・部会の研究発表会参加者を加えるとトータルで約34,000名の方が参加をしています。コロナ禍以降オンライン開催という新しい形での開催も増え、居住地にかかわらず参加できるようになりました。今後も皆さまが参加しやすい形で開催できるよう検討を重ねてまいります。



R&D 懇話会

オンライン参加型の講演会「R&D 懇話会」「技術開発フォーラム」や現地での見学会開催を通じて、参加者同士の技術交流の機会を設けています。2026年度よりR&D 懇話会の法人会員企業の方を対象として、人数無制限でオンライン講演会に参加できる新制度を導入する予定です。今後も会員の皆様にご支持いただけるサービスやシステムを構築していきます。



2025年度開催実績

R&D 懇話会法人会員数：25社

開催回数：9回

参加者数：289名

会場：オンライン開催 (Zoom ライブ配信)、現地開催 (出光興産株式会社北海道製油所、苫小牧 CCS 実証試験センター、カーボンリサイクル実証研究拠点、産業技術総合研究所中国センター)

化学技術レベルアップ講座

当該分野の知識習得が必要な企業の技術系新入社員、中堅技術者などを対象とした2日間の短期集中講座です。本年は2講座を現地、2講座をオンラインで開催しました。

現地開催では、ランチミーティングや懇親会を通し、人的ネットワークを形成することができました。オンライン開催では遠方からも受講いただき好評を得ました。今後も現地、オンラインそれぞれの良さを活かした講座を開講していきます。



2025年度開催実績

開催回数：4回

参加者数：91名

会場：現地開催 (2回)、オンライン開催 (2回)

化学安全スクーリング・ 環境教育シンポジウム

環境・安全推進委員会事業では、毎年講習会やシンポジウムを開催しています。

化学実験に関わる「安全」と「衛生」について総合的に学ぶことを目的とし、安全管理に関わるすべての方を対象とした講習会「化学安全スクーリング」、環境教育を担う教員や環境問題に取り組む技術者・研究者、さらには学生を対象とし、環境教育という枠の中で様々なテーマを設けて開催している「環境教育シンポジウム」があります。



2025年度開催実績

● 化学安全スクーリング

開催回数：1回

参加者数：44名

会場：化学会館

● 環境教育シンポジウム

開催回数：1回

参加者数：330名

会場：ハイブリッド形式 (化学会館 + Zoom ウェビナー)

化学を広める・ 未来の化学者を育てる

子供から大人まで多くの方に化学を身近に感じてもらいたい、
魅力を知ってもらいたい、という想いの下、様々な取り組みを実施しています。

実験教室など

未来を担う子供たちに化学の面白さを知ってもらうため、日本各地で実験教室や講演会などを実施しています。学校ではできないような体験ができると大変好評です。

2025年度開催実績

開催回数：約150件
参加者数：約11,000名



[上] 夏休み子どもサイエンス 2025 ななせの火群まつり出張版（大分県）
[下・左] 東京都立大学 1日体験化学教室（東京都立大学）
[下・右] ひたちなか市キャリア探検ラリー（茨城高等専門学校）

化学の日（10月23日）

10月23日は化学の日です。この日はアボガドロ定数（1molの物質中に存在する粒子の数 = 6.02×10^{23} ）に由来します。2013年10月、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体は、化学および化学産業の魅力、社会への貢献などを広く知っていただきたいという想いの下、10月23日を「化学の日」その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」と制定しました。この時期には日本各地で化学の日になんだイベントを開催しています。化学の理解拡大が進み、化学の道へ進む子供たちが増えることを望んでいます。



[上・左] 高校生のための化学講座（信州大学）
[上・右] 夢・化学-21 化学への招待（徳島大学）
[下・左] 「大学の化学は楽しい！ 分子の世界：知る、見る、触る、作る」（名古屋大学）
[下・右] 実験ガールズ 2025（青森県）

化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子供たちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ててほしいという思いから2004年に発足しました。本事業は、多くの方のご支援の下、寄付金で運営されています。

2025年度開催実績

ニューズレター発行：3回
体験型イベント：4件
参加人数：約100名
メンバー：7,076名



化学グランプリ・ 国際化学オリンピック

1998年、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として「化学グランプリ」が開催されました。現在では約2,500名の中高生が化学の力を競い合います。また、本大会を含めて複数回の試験で選抜された日本代表生徒4名は毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加します。2026年はウズベキスタン共和国で開催される予定です。

2025年度開催実績

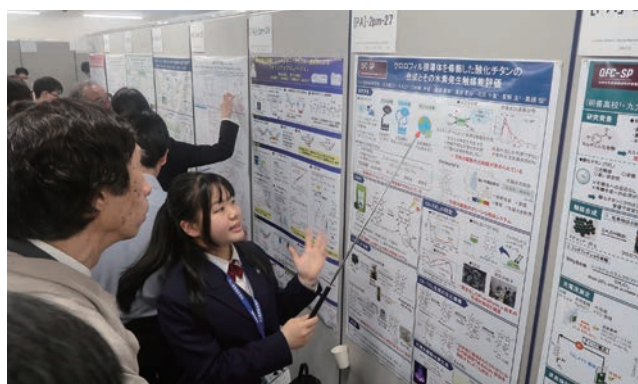
- 化学グランプリ
[一次選考] 参加者数2,476名(マークシート)
[二次選考] 参加者数77名(実験試験)
- 第57回国際化学オリンピック アラブ首長国連邦大会
代表生徒4名参加
(金メダル1 銀メダル3 90カ国・地域・他から354名参加)



[上] 化学グランプリ二次選考 集合写真(工学院大学)
[下・左] 化学グランプリ二次選考 実験試験
[下・右] 化学オリンピック日本代表、文部科学大臣表敬訪問

中高生会員

2016年、化学に関心が高い中高生のために「中高生会員制度」をスタートさせました。春季年会へ無料参加できるほか、実験体験イベントを開催しています。メルマガで「化学と工業」「化学と教育」などのピックアップ記事や化学イベント情報も豊富に提供しています。ピックアップ記事・イベント情報は中高生会員専用のウェブサイトでご覧いただけます。



日本化学会会長とポスター発表を行う高校生

キャリア支援

「学生」「企業」「大学」それぞれがface to faceで正しい情報を交換することが重要であるという考えの下、キャリア支援事業を行っています。

企業現場見学会

2017年から学生会員を対象に企業現場見学会を開催しています。工場や研究所の見学やそこで働く方との交流を通じ、企業で働くイメージを持ってもらうことを目的としています。参加した学生からは「実際に研究を行っている現場を見学することや座談会で社員の方とお話することで、今後の自身のキャリアを考える良いきっかけとなった」との感想をいただいています。また、開催企業からは「化学を志向する学生が参加者であるため、非常に積極的で質問も多くされた」との声を頂戴しています。

2025年度開催実績

開催回数：8回

参加者数：133名

- AGC株式会社 AGC横浜テクニカルセンター（YTC）
- 花王株式会社
和歌山工場内・花王エコラボミュージアム
- 株式会社クラレ くらしき研究センター
- 株式会社クラレ つくば研究センター
- 株式会社島津製作所
Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
- 綜研化学株式会社 狭山事業所
- 株式会社日本触媒 吹田地区研究所
- 三菱ケミカル株式会社
Science & Innovation Center



AGC株式会社



花王株式会社



株式会社クラレ
くらしき研究センター



株式会社クラレ
つくば研究センター



株式会社島津製作所



[左右] 綜研化学株式会社



株式会社日本触媒



三菱ケミカル株式会社

座談会・講演会・セミナー

化学系等専攻の学部生・大学院生を対象とした就職関連の事業です。「化学」に特化したイベントのため、企業・学生双方にベストマッチすることが最大の特徴です。学生にとっては自身のキャリア形成を考える良い機会になっており「様々な企業の社員の方の話を聞いて、自分が将来企業で働くイメージがより具体的になった」というような感想を頂戴しています。

2025年度開催実績

- **大学生・大学院生向けの企業研究者とのオンライン座談会**
開催回数：1回
参加者数：11名
- **キャリアデザイン研究講演会**（近畿支部・オンライン開催）
化学系業界紹介イベント（8月 オンライン開催）
企業7社，学生約66名参加
ランチョンイベント（10月計6回 オンライン開催）
企業1社×6回，学生延べ約50名参加
- **キャリア探セッション2025**
開催回数：1回
参加者数：学生45名，ファシリテーター18名
会場：千葉大学（コロナ禍および界面化学討論会の会期中）
- **化学系学生のための企業研究セミナー**（関東支部）
参加企業：計23社
会場：オンライン開催（Zoomウェビナー・ライブ）
※一部アーカイブ公開あり



年会・フェスタでの支援プログラム

年会やフェスタの会期中にも様々なプログラムを実施しています。中でも論説委員会では、たびたび「人材育成」をテーマに取り上げ、春季年会において論説フォーラムを開催しています。2025年は「化学キャリア革命：就職活動の新常識」と題して、「なぜ今博士課程進学がこれほど推奨されているのか？」を博士号を持つ企業経営者が講演し、現役大学院生のパネラーと就職・進学・キャリア形成に関して議論しました。終演後も引き続き熱心に意見交換を行う姿が見られ、双方にとって貴重な機会となりました。

2025年度開催実績

- **論説フォーラム**（春季年会中の論説委員会企画）
参加者数：約50名



英文論文誌

英文論文誌2誌 Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) と Chemistry Letters (CL) を発行しています。2013年からは科研費「国際情報発信強化」の支援を得て、編集体制の強化・質の高い論文の掲載・レベルの高い著者の獲得・メールやSNSを活用した論文PRなど国際的な情報発信強化に取り組んでいます。

海外出版社オックスフォード大学出版局との協業効果

2024年1月からオックスフォード大学出版局 (Oxford University Press; OUP) との出版協業を開始しました。この協業により以下の効果を得ることができ、ジャーナル向上に大きく寄与しています。

① 国内外での購読機関数増加 (前年比約1.5倍) によるビジビリティの促進

OUPとの協業により、国内・海外での購読機関数が2024年に2023年比で約5倍、2025年には2024年比で約1.5倍となりました。これまで論文を閲覧できなかった機関でも論文を読むことができるようになり、ビジビリティ強化を大きく促進できています。

② Read & Publish 契約 (R&P 契約) の推進によるオープンアクセス化の促進

R&P 契約とは、その契約を結んでいる機関に所属する研究者の論文が契約で定められているジャーナルで採用となった場合に著者が費用を負担することなくオープンアクセス (OA) にて論文を公開できるというもので、著者がOA公開する機会が増えると考えられています。現在、世界的にR&P 契約を推進する流れとなっており、2026年1月時点で、国内外で947機関 (国内は26機関) がOUPとR&P 契約を結んでいます。今後さらに推進していく予定です。

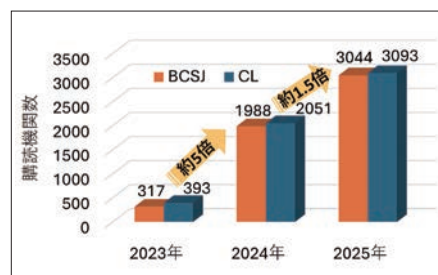
③ 掲載論文の Web of Science への収録の効率化と迅速化

2023年までは、掲載論文の書誌情報を Web of Science (クラリベイト・アナリティクス社提供) に効率的に提供できておらず、Web of Science への収

The Chemical Society of Japan
Oxford University Press
Collaborative Publication

Next Stage

- **Expanding Visibility**
More than 1800 institutes worldwide can access both journals.
- **No Cover Charges**
- **No Page Charges, No Color Charges**
You can publish your paper at no cost.
- **Accelerating Open Access**
Growing number of Read and Publish agreements



購読機関数の増加

2026年の国内のRead&Publish契約機関 (五十音順)
青山学院大学、秋田大学、岩手大学、宇都宮大学、愛媛大学、岡山大学、香川大学、関東学院大学、京都府立医科大学、近畿大学、熊本大学、慶應義塾大学、高知大学、甲南大学、埼玉大学、島根大学、政策研究大学院大学、筑波大学、東京大学、東京医科大学、東京海洋大学、東京電機大学、弘前大学、山形大学、立命館大学、早稲田大学
※太字：2026年から新たに加わった大学

R&P 契約の国内 26 機関

録に時間を要していました。しかし、OUP との協業により、OUP からクラリベイト・アナリティクス社に対して掲載論文の書誌情報を適時、的確に提供できるようになり、迅速に Web of Science への収録を行うことが可能となりました。

4 海外でのジャーナルプロモーションの強化

これまで海外で開催される会議にてジャーナルプロモーション (PR) を実施することは困難でしたが、OUP の国際的なネットワークを用いることにより実施可能となりました。現在は海外で開催される会議でブース出展やデジタルマーケティングを実施しています。

5 論文インパクト指標の可視化

論文インパクトの指標である「被引用回数 (citations)」「該当ウェブページ閲覧数 +PDF ダウンロード数 (views)」「オルトメトリクス (altmetrics)」を各掲載論文のウェブページに表示させ、論文インパクト指標の可視化を実施しています。Account/Review 論文や優秀論文では、公開して間もなく views が 1,000 回を超える傾向にあることがわかり、注目を集めている論文が一目でわかるようになりました。

※オルトメトリクスとは
論文や研究成果のオンラインでの影響度を測定する指標。SNS、ニュース、ブログなどの反応を分析し、従来の引用数だけでは捉えられない多面的な影響を評価。



論文インパクト指標の可視化

創刊 100 周年を迎える BCSJ の特集企画始動

BCSJ は 1926 年創刊で、2025 年に創刊 100 周年を迎えました (1945 年と 1946 年は発行を休止しているため、Volume 100 は 2027 年に迎えます)。創刊 100 周年を祝して「BCSJ 100th Anniversary Collection」というウェブ特集を実施しています。この特集では、菅 裕明博士 (日本化学会前会長) と丸岡啓二博士 (日本化学会会長) をゲストエディターとしてお迎えし、国内・海外の著名な研究者の高品質な Account/Review 論文を掲載しています。



<https://academic.oup.com/bcsj/pages/100th-anniversary-collection>



BCSJ 100 周年を PR するチラシ

Impact Factor は BCSJ と CL ともに堅調

2025年に発表となった Impact Factor (IF) は BCSJ が 3.8, CL が 1.1 となり, 堅調な数値となりました。

メール配信や X (旧 Twitter) を利用して 掲載論文を PR

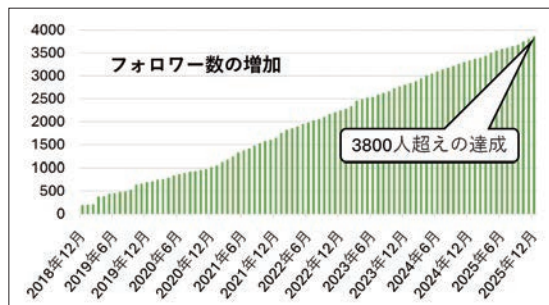
個人会員 (ディビジョン登録者) を対象にメールにて掲載論文情報の配信をしています。各ディビジョンに関連する内容の論文で, フリーアクセス論文を中心にお知らせしています。X では, 掲載論文情報や国際会議等でのジャーナル PR について配信しており, フォロワー数は 3,800 名を超えました。オリジナル企画「ジェンセン・レイダーの化学論文を書くための英語講座」は好評につき配信継続中です。また, オリジナル企画第 2 弾「集え! 若き化学者たち」の配信も行っています。主に優秀論文や Review 論文の第一著者である学生にスポットを当て, 「研究室でのルーティン/こだわりの行動」や「My Favorite ○○」などの質問に答えていただき, 優秀な学生を紹介する企画となっています。ぜひフォローをお願いいたします。



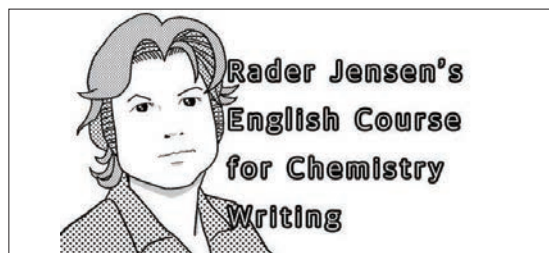
X アカウント - CSJournals_jp

Account/Review Collection (BCSJ) Highlight Review Collection (CL) の配布

質の高い Review 論文を多数掲載しており, それらの論文をより多くの研究者に認知してもらうために, タイトル, 著者名, キーワード, Graphical Abstract, 責任著者写真をまとめた小冊子「Account/Review Collection (BCSJ)」と「Highlight Review Collection (CL)」を作成して広く配布を行っています。



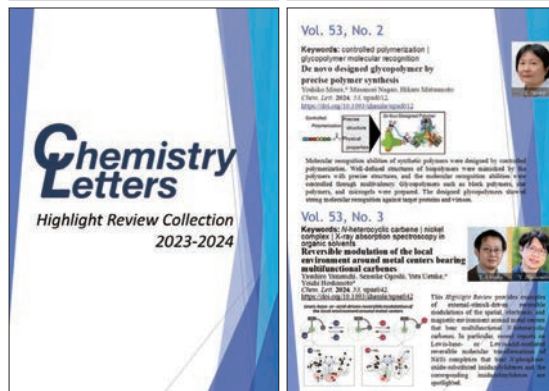
X のフォロワー数の推移



英語講座企画



若手研究者 (主に学生) にフォーカスした企画



[上] Account/Review Collection (BCSJ)

[下] Highlight Review Collection (CL)

出版

1891年の「化学訳語集」刊行以降、様々な出版事業を行っています。
現在は機関誌・英文論文誌・書籍を発行し、社会の変化を捉えた誌面の充実、
最新の研究や生活の中の化学を社会に届けるための情報発信に取り組んでいます。

化学と工業誌：最新情報を会員に

毎月1日に発行し、会員に配布しています。
毎号、特集テーマとして化学や化学工業分野の最新情報を取り上げ、わかりやすく解説した記事を掲載しています。2025年は「大学発ベンチャー企業」「文化財の修復・保存・調査に関わる化学／科学」「脳機能」「ハイエントロピー合金」「統合的物質合成科学」「革新的反応技術」「未踏ナノ領域」などの話題を取り上げました。このほかに、注目トピックスのインタビューを扱った記事「OVERVIEW」、会員の紹介記事「CCIサロン」などを掲載しています。



化学と教育誌：教育現場に役立つ情報を

毎月20日に発行し、教育会員や教育学生会員等に配布しています。毎号、教育現場で役立つ化学実験の紹介や最新情報をわかりやすく解説した記事や会員からの投稿記事も審査の上掲載しています。2025年は、最新のトピックスとして『次世代放射光施設「ナノテラス」と放射光を利用した物質科学』などの特集を実施しました。

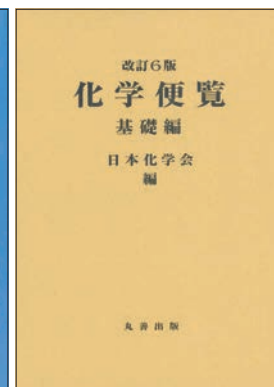


様々な刊行物

日本化学会では、「化学便覧」「実験化学講座」「カレントレビュー」「化学の要点」など、数多くの書籍を編集・刊行しています。2025年度は化学の要点49巻を発行しました。

2025年度出版物

- [化学の要点シリーズ49] 超セラミックス



グローバル化

化学の世界で国際的なリーダーシップを発揮し活躍できる人材育成、研究推進を強力にサポートしています。また、持続性社会の確立、SDGsの達成、地球環境の保全などの重要な課題に対し、基幹科学としての「化学」の後ろ盾を担う本会が「solution provider」として政策への提言やCS3 (Chemical Sciences and Society Summit) などのプラットフォームを通じて世界の化学会と協調して情報発信を行っています。

Pacificchem (環太平洋国際化学会議) の開催

5年に一度ハワイ・ホノルルで開催される、世界の化学界における一大イベントです。日本、アメリカ、カナダの設立学会に加え、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランドの7ヵ国の化学会が共同主催しています。2025年の第9回はカナダが-host国を務め、全体テーマ「Building Communities to Address Global Challenges」の下、12月15～20日の6日間ホノルルにて開催されました。前回の2021年大会は新型コロナウイルス感染症の影響により完全オンラインでの開催であったため、今回は2015年以来10年ぶりの現地開催となりました。会期中は世界66の国と地域から約1万名が参加し、約1万件の講演が行われました。



国際的連携・協調, 異文化交流

化学の国連とも称されるIUPAC^{※1}やアジア化学連盟; FACS^{※2}との国際協調をはじめ、ACS^{※3}と密接に連携して顕彰するNakanishi Prize, RSC^{※4}との二国間協定に基づくPCCP Prize授賞選考を行っています。さらにCST^{※5}やICS^{※6}とも協力協定を締結し共同で国際シンポジウムを開催するなど、幅広い国際交流活動を行っています。また、様々な国際会議へ代表者を派遣し日本化学会の国際競争力の向上と認知度の拡大に貢献しています。



日英シンポジウム



日台シンポジウム

- ※ 1 The International Union of Pure and Applied Chemistry
- ※ 2 The Federation of Asian Chemical Societies
- ※ 3 The American Chemical Society
- ※ 4 The Royal Society of Chemistry
- ※ 5 The Chemical Society of Taiwan
- ※ 6 The Israel Chemical Society

社会に向けた様々な取り組み

本会においても、
その変化に対応するべく様々な取り組みを行っています。

化学遺産関係

化学遺産委員会への寄付を基に著名な化学者との対話冊子の作成や化学関連の文化遺産の調査、認定、発表をしています。2025年は3件が化学遺産に新規認定されました。また、毎年市民公開講座にて新規認定遺産の解説講演を開催しています。

2025年度認定化学遺産

- 第073号 直火真空蒸留釜 (通称:地球釜)
- 第074号 世界に先駆けた溶媒循環型分取GPC装置
- 第075号 北海道大学総合博物館所蔵のチセリウス電気泳動装置



[上・左] 直火真空蒸留釜 (通称:地球釜)
(大八化学工業株式会社 大阪技術開発センター 所蔵)



[上・右] リサイクル分取 GPC LC-08 型 (日本分析工業株式会社 所蔵)



[下・右] 日立製作所製 HTB-2A 型チセリウス電気泳動装置 (北海道大学総合博物館 所蔵)

市民公開講座

開催回数: 1回

参加者数: 186名 (現地29名/オンライン157名)

会場: ハイブリッド開催 (化学会館/Zoom)

缶バッジデザインコンテスト

「化学の日」を広める取り組みの1つとして、2015年より毎年「化学の日缶バッジ」のデザインを公募しています。最優秀賞は缶バッジとして各種イベントにて配布されます。入賞作品は日本化学会ウェブサイトをご覧ください。

2025年度応募実績 (総数: 1,129点)

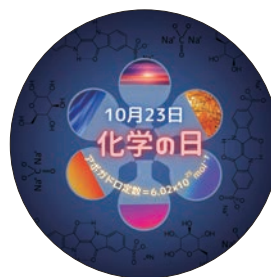
小学生の部: 9点

中学生の部: 344点

高校生の部: 614点

一般の部: 162点

2025年缶バッジデザインコンテスト結果



最優秀賞 (バッジ作品)



優秀賞

吉野彰研究助成

リチウムイオン電池開発における革新的な功績により2013年度にThe Global Energy Prize（2002年にロシアで創設されたエネルギー分野のノーベル賞といわれる最も権威ある賞）を受賞された吉野彰博士（旭化成株式会社／日本化学会名誉会員）が、その報奨金をエネルギー、環境、資源分野の研究活動の活性化のために有効に使いたいとの思いから本会に寄付され、その基金を基に2014年度に「吉野彰研究助成事業」が創設されました。募集テーマについては毎年吉野博士自ら設定されております。

2025年度募集のテーマ

- 木質材料の生分解性の機構に関する基礎研究と生分解性の制御技術に関する基礎研究
助成対象者：該当者なし



長倉三郎賞

2020年4月に逝去された長倉三郎博士（日本化学会元会長／名誉会員）のご遺族より、化学の発展と後進の育成のためにと多額の寄付をいただきました。これに基づき、本会は2021年度に長倉三郎賞を新設いたしました。この賞は、研究・開発における業績の独創性と独自性を特に重視して未来の化学を担う将来性のある受賞者に授与される点等、他の日本化学会各賞とは一線を画した新しい賞であり、次世代の優れた化学者を育成し、化学と日本化学会のさらなる発展に大きく寄与すると期待しております。

2025年度受賞者

- 第5回長倉三郎賞
氏名：王 謙（名古屋大学大学院工学研究科 教授）
受賞題目：太陽光によるCO₂と水からの化学品合成へ向けた革新的光触媒の創出
正賞：表彰楯
副賞：1,000万円（使途や期間等の制限なし）



表彰事業

化学の基礎または応用に関する研究業績ならびに我が国の化学工業の技術開発、化学教育上の業績、本会活動への功績について、毎年各賞の選考委員会において厳正な選考が行われ、理事会の審議を経て決定、受賞者の表彰を行っております。

2025年度各賞受賞者（敬称略）

第78回日本化学会賞

北川 宏（京大院理）
忍久保 洋（名大院工）
柴田哲男（名工大院工）
菅 裕明（東大院理）
佃 達哉（東大院理）
中井浩巳（早大先進理工）

第43回学術賞

跡部真人（横国大院工）
井上圭一（東大物性研）
大内 誠（京大院工）
佐伯昭紀（阪大院工）
佐藤敏文（北大院工）
田中 賢（九大先導研）
難波康祐（阪大院理）
西澤精一（東北大院理）
正岡重行（阪大院工）
森 浩亮（阪大院工）
藪 浩（東北大AIMR）
山方 啓（岡山大異分野研）

第75回進歩賞

秋山みどり（京大院工）
荻原直希（九大中央分析セ）
奥村慎太郎（京大院工）
小林弘明（北大院理）
齋藤雄太朗（東大院工）

鈴木 肇（京大院工）
増田侑亮（北大院理）
谷田部孝文（東大院工）
山内光陽（京大化研）
吉井丈晴（東北大多元研）

第14回女性化学者奨励賞

猪瀬朋子（京大高等研究院）
王 謙（名大院工）

第74回化学技術賞

池本一人
佐藤勇紀
（以上、三菱ガス化学（株））
字都孝行
長田俊一
合田 亘
井ノ本 健
中司修平
（以上、東レ（株））

第31回技術進歩賞

緒方雄大
（以上、積水化学工業（株））
島田聡之
岡田康平
齊田和哉
（以上、花王（株））

成清颯斗
宮尾 将
（以上、東レ（株））

第50回化学教育賞

高木由美子（香川大教育）
長南幸安（弘前大教育）

第43回化学教育有功賞

平松茂樹（慶應湘南藤沢中・高）

第44回化学技術有功賞

鳥居 桂
三木浩一
三宅宏明
（以上、（株）創造化学研究所）
渡 脩
（以上、（株）セルシステム）

第21回功労賞

該当者なし

第5回長倉三郎賞

王 謙（名大院工）

企業・団体からのご支援

100口以上

AsahiKASEI

KaO

 DIC 株式会社
Color & Comfort

TORAY

FUJIFILM

 Mitsui Chemicals

 MITSUBISHI
CHEMICAL
GROUP

三菱ケミカル株式会社

50口以上

 AGC
Your Dreams, Our Challenge

KANEKA

 kuraray
Possible starts here

 住友化学

 DAICEL
株式会社ダイセル

TEIJIN

 東ソー株式会社
TOSOH

 MARUZEN
PUBLISHING

RESONAC

10～49口

化学

artience (株)
(株) ADEKA
荒川化学工業 (株)
石原産業 (株)
(株) 大阪ソーダ
大塚化学 (株)
関西ヘイント (株)
クミアイ化学工業 (株)
(株) クレハ
興和 (株)
三洋化成工業 (株)
JSR (株)
JNC (株)
信越化学工業 (株)
住友精化 (株)
住友ペークライト (株)
積水化学工業 (株)

セントラル硝子 (株)
高砂香料工業 (株)
デンカ (株)
東亜合成 (株)
(株) トクヤマ
日亜化学工業 (株)
日油 (株)
日産化学 (株)
日鉄ケミカル & マテリアル (株)
日東電工 (株)
日本化学工業 (株)
日本化薬 (株)
(株) 日本触媒
日本ゼオン (株)
日本曹達 (株)
三菱ガス化学 (株)
森田化学工業 (株)
UBE (株)

ライオン (株)
医薬品
アステラス製薬 (株)
小野薬品工業 (株)
塩野義製薬 (株)
第一三共 (株)
田辺ファーマ (株)
中外製薬 (株)
マルホ (株)
Meiji Seika ファルマ (株)

ゴム製品

(株) プリヂェストン
横浜ゴム (株)
食料品
味の素 (株)
サントリーホールディングス (株)

石油・石炭製品

出光興産 (株)
ENEOS (株)
機械
ダイキン工業 (株)
金属
東洋鋼鈹 (株)
公的研究機関
(国研) 理化学研究所

精密機器

(株) 島津製作所

電気機器

コニカミノルタ (株)
日本電子 (株)
(株) 村田製作所

非鉄金属

住友電気工業 (株)

口数、業種別に 50 音順・敬称略 (2026 年 4 月 1 日現在)

ほかにも幅広い業種 (電気・ガス、鉄鋼、パルプ・紙、輸送用機器等) を含む多くの企業・団体にご支援いただいています。

詳細は下記 URL をご参照下さい。(394 社)

<https://www.chemistry.or.jp/societyguide/organization/corporationlist.html>

ご支援のお願い

当会では化学の振興、普及を目的とした活動に対し、皆様にご寄付をお願いしております。

化学振興活動

各種イベント（春季年会、CSJ化学フェスタ、市民公開講座等）、化学グランプリ・国際化学オリンピックへの代表生徒派遣、化学会館の修繕・補修、支部・部会活動等、本会事業全体に活用させていただきます。



国際化学オリンピック表彰式



春季年会学生ポスター発表



高校生のための化学講座

化学だいすきクラブ事業

小・中学生対象事業を専門にした支援です。子供たちへ冊子の無料配布や実験教室を開催するために活用させていただきます。

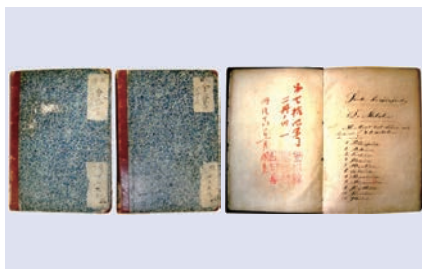


化学遺産事業

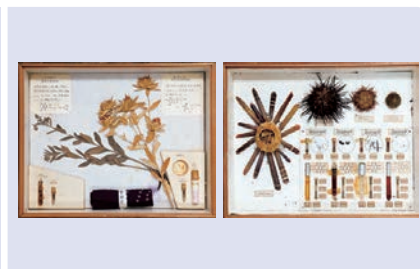
化学・化学技術に関する歴史的に貴重な史料を守り、また化学関係の諸先達の偉業を伝えるなど化学の業績を後世に伝えていくための活動に活用させていただきます。



宇田川榕菴自ら描いたと推定される
気体実験用の器具類（認定化学遺産 第001号）



日本最初の化学講義録 朋百舎密書（ボンベ化学書）
（認定化学遺産 第007号）



（左）紫根と紫根染めとシコニン標本／（右）ウニとその色素
スピノクロムの標本（認定化学遺産 第019号）

本会への寄付金は税制上の優遇措置（寄付金控除）が受けられます。詳しくは日本化学会ウェブページをご覧ください。

寄付の詳細は [日本化学会](#) で検索ください。



化学会概要

沿革

1878年	化学会創立，翌年，東京化学会と改称
1898年	工業化学会創立
1921年	東京化学会が日本化学会と改称
1941年	社団法人に移行
1948年	日本化学会と工業化学会が合併
1978年	創立100周年記念
1991年	化学会館竣工
2003年	創立125周年記念（天皇皇后両陛下ご臨席）
2011年	公益社団法人に移行
2018年	創立140周年
2020年	化学会館改修

会員（2026年2月末現在）

約2.3万人の会員を擁し、国内自然科学系の学会としては最大の規模を誇る。法人正会員は395法人。

会員種	
個人正会員	16,001
学生会員	4,361
中高生会員	116
教育会員	1,394
名誉会員	62
法人正会員	395
公共会員	252
合計	22,581

目的・事業

（目的）

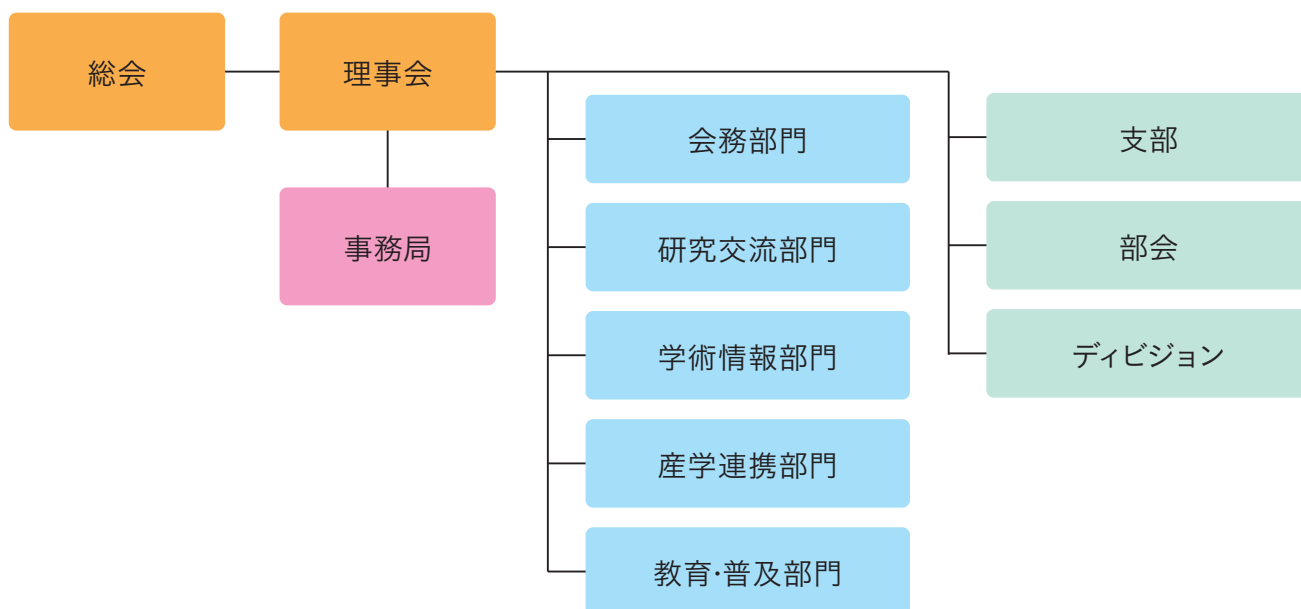
本会は、化学に関する、学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することを目的とする。（定款第3条）

（事業）

本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
 - (2) 会誌並びに学術図書の刊行
 - (3) 内外の関連学協会との連携，協力
 - (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
 - (5) 産学，産産交流並びに連携の推進など産業の振興に資する事業
 - (6) 化学知識の普及に資する事業
 - (7) 化学教育の振興など人材の育成に資する事業
 - (8) 化学の振興に関する政策提言
 - (9) 科学及び技術に関する調査，研究
 - (10) 科学及び技術に関する研究の助成
 - (11) その他本会の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。（定款第4条）

組織図



役員 (2026年5月25日現在)

会長 森川宏平 (㈱レゾナック HD)

筆頭副会長 林 高史 (大阪大学)

常務理事 鈴木慎一 (日本化学会)

副会長 石井洋一 (中央大学)

副会長 岩崎史哲 (㈱トクヤマ)

副会長 菅 誠治 (岡山大学)

副会長 鳳城延佳 (出光興産㈱)

副会長 和田健彦 (東北大学)

理事 跡部真人 (横浜国立大学)

理事 池田 浩 (大阪公立大学)

理事 植村卓史 (東京大学)

理事 栄長泰明 (慶應義塾大学)

理事 菊地和也 (大阪大学)

理事 佐藤敏文 (北海道大学)

理事 茂本 勇 (ダイキン工業㈱)

理事 清水史彦 (三菱ケミカル㈱)

理事 須郷 望 (㈱クラレ)

理事 鈴木由美子 (上智大学)

理事 徳永 信 (九州大学)

理事 長瀬 忍 (花王㈱)

理事 永次 史 (東北大学)

理事 菱川明栄 (名古屋大学)

理事 火原彰秀 (東京科学大学)

理事 松田建児 (京都大学)

理事 水田 勉 (広島大学)

理事 宮内雅彦 (㈱カネカ)

理事 渡邊 賢 (東北大学)

監事 安平次重治 (㈲山口ティール・エル・オー)

監事 福田 伸 (北海道大学)

監事 三浦雅博 (大阪大学)

監事 錦織広昌 (信州大学)

計 31 名

会計報告 (2025 年度)

貸借対照表 (要約版)

2026年2月28日現在

科目	(単位：千円)
〈資産の部〉	
流動資産	347, 173
固定資産	2, 721, 552
基本財産	554, 176
特定資産 (負債対応)	194, 127
特定資産 (指定)	1, 173, 228
特定資産 (一般)	328, 966
その他固定資産	471, 055
資産合計	3, 068, 725
〈負債の部〉	
流動負債	219, 109
固定負債	229, 934
負債合計	449, 043
〈正味財産の部〉	
指定正味財産	1, 173, 227
一般正味財産	1, 446, 455
正味財産合計	2, 619, 682
負債及び正味財産合計	3, 068, 725

正味財産増減計算書 (要約版)

2025年3月1日～2026年2月28日

科目	(単位：千円)
〈収益〉	
受取会費等	253, 496
イベント関連収益	150, 999
補助金・寄付金等収益	115, 862
購読・印税等収益	114, 138
賃貸関連収益	113, 894
運用等収益 他	50, 833
広告掲載収益	44, 812
収益 計 (経常収益+経常外収益)	844, 034
〈費用〉	
事業費	769, 428
管理費	71, 121
費用 計 (経常費用+経常外費用)	840, 549
投資有価証券評価損益 等	21, 212
当期増減額	24, 697
法人税等	70
当期一般正味財産増減額	24, 627

受取補助金内訳

交付者	(単位：千円)
日本学術振興会 (国際情報発信強化)	43, 100
徳山科学技術振興財団 他	8, 286
計	51, 386

受取寄付金内訳

	(単位：千円)
有機化学若手育成部会	25, 655
安田修祥・裕美子若手化学者留学支援事業	15, 000
150周年記念事業	7, 780
化学だいすきクラブ事業	2, 504
化学遺産事業	1, 364
化学振興事業	872
計	53, 175

ノーベル賞受賞会員

2025年
受賞

化学賞

北川 進

受賞理由：多孔性金属錯体の開発
2009年 日本化学会賞受賞

2019年
受賞

化学賞

吉野 彰

受賞理由：リチウムイオン電池の開発
1999年 化学技術賞受賞

2015年
受賞

生理学・医学賞

大村 智

受賞理由：線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見

2014年
受賞

物理学賞

天野 浩

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2014年
受賞

物理学賞

赤崎 勇

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2010年
受賞

化学賞

根岸英一

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒
クロスカップリング
1997年 日本化学会賞受賞

2010年
受賞

化学賞

鈴木 章

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒
クロスカップリング
1989年 日本化学会賞受賞



©*The Nobel Foundation.

2008年
受賞

化学賞

下村 脩

受賞理由：緑色蛍光タンパク質の発見とその応用

2002年
受賞

化学賞

田中耕一

受賞理由：生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

2001年
受賞

化学賞

野依良治（日本化学会 元会長）

受賞理由：不斉触媒による水素化反応の研究
1985年 日本化学会賞受賞

2000年
受賞

化学賞

白川英樹

受賞理由：導電性高分子の発見と開発

1981年
受賞

化学賞

福井謙一（日本化学会 元会長）

受賞理由：化学反応過程の理論的研究



公益社団法人
日本化学会

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
TEL: 03-3292-6161 FAX: 03-3292-6318
<https://www.chemistry.or.jp/>

デザイン: 株式会社マツダオフィス
印刷: 三永印刷株式会社

2026.06.

